



無印良品の
白いシャツ展

2013年1月26日(土) - 3月3日(日)

無印良品 有楽町 2F
ATELIER MUJI

無印良品の白いシャツ展

大地から生まれる素材、暮らしから生まれる形。「素」の白いシャツにつつまれ、自分の「形」をさがします。

無印良品 有楽町 ATELIER MUJI

2013年1月26日(土) - 3月3日(日) 10:00 - 21:00 [会期中無休] 入場無料

無印良品は1980年の誕生以来、生活の基本となる本当に必要なものを必要な形で考えて、ものづくりをめざしてきました。はじめてシャツをお届けしてからちょうど30年の節目に当たる今年、「生活の基本となる本当に必要なものを必要な形で」というものづくりの純度をさらに高めるために、私たちは、改めてシャツの本質と向き合おうと考えました。シャツが持つ社会的な約束ごと、象徴性も、様式もリセットして、一枚の白い布からシャツの「素」を抽出する試み。それが「無印良品の白いシャツ展」です。ここに私たちの原点があり、未来があります。

本展展示作品『印無いシャツ』の制作は、シャツを「素」にまで解体するために、歴史の中で人間が与えた印を取り除く作業から始まりました。多様な暮らしの象徴性を取り除いたあとに現れたのは、生き方の可能性を無限に包み宿す産着のような身体を直接包む一枚の布、そして布を着用する人の印象や認識に大きく影響する首まわりを被う一枚の襟としての小布でした。この身体を優しく包む一枚の布を纏う人は、自分自身にとって大切に必要の印に気づき、新たな暮らしの場を手に入れ、豊かに生きる方法を無限に変化させることができるのだと思います。あなたにとり、大切に必要の白や襟とは、心豊かに暮らすためのシャツとは、どのようなものなのでしょうか。

トークイベント「衣服とデザイン」

関連イベントとして、デザイン評論家の柏木博氏をお招きし、広義な意味での衣服とデザインの関係について本展のディレクションを担当した真田岳彦氏とのトークイベントを開催いたします。素材、色、形、機能などさまざまな要素が人の営みや、暮らしの中からできてくるデザインなどについてお話しいたします。

日時 | 2013年2月2日(土) 14:00-15:30 (受付13:30~) 定員 | 60席

出演 | 柏木博氏 / 真田岳彦氏 会場 | 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI 参加費 | 無料

事前ご予約はアトリエムジHPにて1月9日(水)より承ります。(なお、ご予約は満員になり次第終了致します。)

<http://www.muji.net/lab/ateliermuji/>



柏木 博(かしわぎ ひろし) デザイン評論家 / 武蔵野美術大学教授(近代デザイン史専攻)
1946年神戸生まれ。武蔵野美術大学卒業。現在、とくに「室内」と意識・感覚の問題をテーマにしている。著作『家事の政治学』青土社、『モダンデザイン批判』岩波書店年、『しきりの文化論』講談社、『玩物草子』平凡社、『探偵小説の室内』白水社ほか多数。展覧会監修:『田中一光回顧展』東京都現代美術館、『脳の夢』パリ日本文化会館ほか多数。



真田 岳彦(さなだ たけひこ) 衣服造形家 / 女子美術大学教授(ファッションテキスタイル表現領域)
1962年東京都生まれ。イッセイ ミヤケ社勤務後渡英し、彫刻家リチャード・ディーコンの助手を務め独立。以降、染織、衣服を通じた造形 / デザイン活動を国内外で多数行い、伝統繊維再考プロジェクトの開催、衣服により社会問題を考える「プレファブコート」のデザイン制作・提供も行う。真田造形研究所代表、真田塾主宰。国立民族学博物館外来研究員。



会期 | 2013年1月26日(土) - 3月3日(日)
時間 | 10:00-21:00 [会期中無休] 入場無料
会場 | 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI
お問い合わせ | <http://www.muji.net/lab/ateliermuji/>
主催 | 無印良品
企画 | 株式会社良品計画 衣服・雑貨部
ディレクション・企画制作 | 真田岳彦
企画・運営 | 無印良品 有楽町 ATELIER MUJI
グラフィックデザイン | 新村則人

[アクセス] JR山手線・京浜東北線「有楽町駅」下車[京橋口]すぐ、
東京メトロ有楽町線「有楽町駅」下車[D9出口]すぐ、
東京メトロ有楽町線「銀座一丁目駅」下車徒歩3分

無印良品 有楽町 2F
ATELIER MUJI